梅を漬けたりらんきょを漬けたりと主婦には忙しい季節となりました。6月6日は清沢満之（マンシ）先生のお命日である臘扇忌（ロウセンキ）でした。以前にもご紹介しましたが、清沢先生は明治時代に近代教学の基礎を築くという宗門にとって大きな功績を遺した方です。先生が開かれた浩々洞からは後の教団の支柱となる多くのお弟子方が誕生しました。臘扇（ロウセン）とは「冬の扇子」という意味です。「無用」の意です。清沢先生がご自分のことを「臘扇」と名のられたおこころはいかなるものだったのでしょうか？自分のことを無用の者とへりくだるこころの背景には、自力は間に合わないと知り、深く如来に帰依し救われた者の絶対的安心があるのでしょう。自己が滅しられ絶対帰依された深い歓びからの名のりなのです。自己を内省し、絶対界（仏）に帰依する、それこそ自分をもっとも輝かせる生き方になることを教えて下さっています。　　　　　　　合掌

　　【平成２４年度第8回定例聞法会】

　　　　**平成２5年6月１３日（木曜日）**

　　　昼の部　一時半～、　夜の部　七時半～

　　　　　　〈念誦、お経本、肩衣〉